



ひかりのこつうしん No.6

2024/10/31
ひかりの子幼稚園

『わたしたちは目に見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。』

コリント人の信徒への手紙Ⅱ4:18

残暑もようやく終わりを告げ、秋の夜長には虫たちの鳴き声が耳に心地よい季節となりました。晴天に恵まれ皆様のご協力の元、無事運動会が挙行できましたこと心よりお礼申し上げます。閉会式では放送の不具合で音声途切れることもあり、お聞き苦しい点があったことお詫びいたします。改めて閉会式でお伝えしたかったことを要約して掲載させていただきます。

【閉会式挨拶要約】

園の保育理念は「キリスト教保育の理念に基づいて、子どもは一人ひとり神さまから愛されている存在として捉え、共に生きることを通して、自分を愛し、他者を愛する子どもたちの主体的な心と身体の成長を見守り支えること」です。

その理念に基づき、運動会を通してどのような成長を見守り支えるべきなのか？その目的とはなんでしょうか…？

例えばプログラムのリズムなら

「みんなが音楽に合わせて踊っている」

「手がピンと伸びてキレイ」

かけっこやリレーでは

「1位になった」

「負けた」

「抜かした」

「抜かされた」など

「速さ」や「順位」で、目に見えてわかりやすいですね。

私たちが育てたいと願う成長とはそういう目に見える事ではなく、目に見えない「心の育ち」なのです。

こんな大きなグラウンドで何かをすることは大人でもドキドキしますね

こりす組、年少組は大好きな保護者の前で生き生きと自分らしさを表現することを心一杯楽しむ子もいます。本当に愛らしい姿です。が一方でとても恥ずかしく、抵抗を感じる子もいます。その感じ方は違っていいと思いますし、違って当たり前ですね。

年中組はそういう中でイメージを少しずつ膨らませ、物語の世界に入り込み、さまざまなリズム表現しようとする、一人ひとりの工夫や頑張りがありました。

年長組はリレーの走り順を自分たちで決めました。

話し合いにかなりの時間を費やしました。

○自分の思いを話し伝え、相手の思いを知りわかろうとしたこと

○どうしたらチームがもっと速く走れるか意見を出し合い、取り組み工夫したこと

○自分だけがいいのではなく、クラスの友達存在を認め合ったこと

そういう「目に見えない心」が運動会の取り組みを通じて育ちました。

毎日毎日が成長、変化や進化の連続でした。

今日うまくいってもいなくても、勝っても負けてもそこまでのプロセスの中でいろいろな経験や葛藤をすること、それこそがひかりの子幼稚園が大事にしている事なのです。

これらの経験がきっとこれからの子どもたちの生きる力の土台となってくれることを信じています。

そう感じさせてくれた運動会の取り組みだったと思います。大きな感動を与えてくれた子どもたちに心から拍手を送りたいと思います。

どうか保護者の皆様も子ども達の心の育ちに寄り添い、受け止め、いっぱいほめてあげて下さいね。

運動会は終わりましたが、子ども達はまだまだ運動会の余韻の中にいます。

- 小さな学年は運動会の翌週「体育遊び」の時間にパラバルーンで遊びました。運動会で見たことをよく覚えていて「上上上上、下下下下、お・や・ま！」と掛け声をかけながら、年長のお兄ちゃんお姉ちゃんにあこがれ楽しむ姿がありました。
- クラスでは「曲かけてえー！今日も踊ろう！」と取り組み覚えたリズム表現を毎日繰り返し楽しんでいきます。
- こぼと組では海賊から宝物が届き一人一人に「宝石」のプレゼントがありました。「えー届いたんや！」驚きと喜び、大事そうに宝石を持ち帰る姿があり、まだまだファンタジーの世界での遊びは続いています。
- リレーで負けが続いていたこひつじ組のあるクラスの様子・・・

全体練習のたびに子どもたちは「負けた」とがっくり肩を落とし、悔しがりました。

担任は悔しい気持ちを受止め、「みんなよくがんばったよ。あんなに話し合っただけの結果の今日の3位は昨日の3位と違うと思う」と話しました。

「もう1度走順を考え直したい」と子どもたちから提案がありました。

「足の速い子と遅い子を交代ごうたいに走るのはどうかな」
「バトンを渡す時〇〇くん！と言って渡すのどうかな」
「バトンをもらう時も後ろを向いてちゃんと受け取ることも大事だと思う」
「腕を振り、足を上げて走ると速くなるってお父さんが言ってたよ」と走るコツを教えてもらった子がみんなの前で実際にやって見せてくれました。

走り方、バトンの受け渡しなど真剣に話し合い、そして最後の練習の日。
「やっぱり今日も1位になれなかった…。」と悔し涙を流す子どもに、こちらももらい泣きをするほどでした。そして運動会当日もやはり1位にはなれず……。

運動会が終わって子どもたちに感想を聞いたら、そのクラスから出た言葉は「リレーは負けちゃったけど運動会楽しかったなあ。みんなでいっぱい話し合っ、全員で走れたことが楽しかった。またあと10回やりたいわ！」と言った子がいて、みんなも「そうやな、楽しかったなあ」「負けたけど楽しかったな」とニコニコ笑顔だったそうです。

「終わってみたら全部楽しかった」と言った子どもの感想はまさしく「目に見える順位でなく、運動会当日までの葛藤や経験などプロセスそのものを楽しんだこと」の表れであると思いました。

「目に見えるものは一瞬で過ぎ去ること」
「目に見えないものは永遠に残り、心が育ち生きる力の土台となること」
「そのことにこそ私たち大人は目を注ぐこと」
改めて子どもたちから教えられた出来事でした。

運動会のあと遠足、みかん狩りを経て、秋から冬にかけてみのりまつり、クリスマス会など楽しい行事が続きます。今後子どもたちがどんな成長をみせてくれるのか楽しみです。

季節の変わり目、体調を崩しやすい今日この頃です。皆様の健康を心からお祈りしています。

ひかりの子幼稚園 園長 松本 直子